8月号 ごあいさつ

With コロナ時代の心の持ち方

「 恰(あたか)も好し 」という揺るぎない人生を！！

株式会社 山西 あすなろ会顧問 代表取締役社長 西 垣 洋 一

現在の日本の社会・経済状況は、東京圏を中心に再拡大した新型コロナウィルス感染が、地方都市にも波及、東海地方でも歯止めがかからず、愛知県では7月29日に167名もの感染が確認され、感染経路不明も増えており市中感染が懸念される緊迫した状況です。他方コロナ禍の経済活動の停滞は、既にコロナ倒産・失業を引き起こしており、これ以上の経済の停滞・収縮が許されない中、更なる倒産・失業を生む二次・三次被害のリスクが高まっています。「新しい生活様式」への適応を進め感染防止を図りつつ、いかに経済を継続・拡大させるかが問われています。

現在は正に不安と混迷の時代であり、進むべき方向は、なお薄闇に閉ざされており、何もかもはっきりしない状態です。将来に不安を感じ、「どう生きたらいいのか？」、生き方について迷い、悩み、模索しているかのように思います。私は迷った時、唐の禅僧 趙洲禅師の**「恰も好し」**の教え（私の座右の銘）を噛み締めます。禅師は、ある僧との問答で次のように言われています。

ある僧が趙洲に問うた
「大難到来せり、如何が回避せん」
（大難が到来しました。どのように対処したらよいのでしょうか）
師はただ一言答えた
「恰も好し」

禅師は、大難でも小難でも、七難でも八難でも何でも「ありがたくいただくぞ」と言うのです。来るものから逃げることなど出来はしない。回避したいと悩むから苦しみが始まり、回避したいと思わなければ悩むことはない。「恰も好し」の簡潔な言葉に全受容の態度が満ち溢れています。「恰も好し」とは、どんな非常事態にあっても「何でもこい」と微動だにしない人間の“心のあり方”を言っています。それはどんな状況でも受けて立つ。どんな状況になっても、その中でベストを尽くせば悔いはない、そしてどんな結果でも受け入れる。そういう“心のあり方”を言うのです。

又同様に、闇夜を行く時には足元を確かめて歩むことの大切さに導く禅の教えに**「看脚下」**（足元を見よ!!）があります。闇夜に灯りを失ったような人生の悲劇に遭遇した時、多くの人は右往左往して吾を見失い、生きる道を遠くに求めようとするものです。**“なんぞ知らん道は近きにあり、汝自身に向かって求めよ”**と教えるのが「看脚下」なのです。悩んだ時には、足元を見よ。そして1歩1歩地に足を着け歩いていけ、あれこれと悩むなと ･･･。

そして現在のコロナ禍の中、思い出されるのが東井義雄先生の**「小さい勇気をこそ」**（右参照）という詩です。大嵐に立ち向かう大きい勇気もほしいが、小さい勇気こそほしい。小さい勇気を軽蔑していては、いざと言う時の大きい勇気もつかめないのではないかと言われています。企業もまた自分の足元をしっかり見つめ、今できること、今為すべきことを問い続け、1つ1つ実行する勇気が必要です。

当社としましては、コロナ禍が逼迫する中、引き続き感染防止を第1とし、Withコロナ時代にどんなお役立ちができるのかを絶えず問い、皆様と一緒に歩んで参りますのでご愛顧の程お願いいたします。

2020年8月吉日

『小さい勇気をこそ』　東井義雄先生

人生の大嵐がやってきたとき
それがへっちゃらでのりこえられるような
大きい勇気もほしいにはほしいが
わたしは
小さい勇気こそ　ほしい

わたしのたいせつな仕事をあと廻しにさせ
忘れさせようとする小さい悪魔が
テレビのスリルドラマや漫画に化けて
わたしを誘惑するとき
小さい勇気でいいから
わたしはそれがほしい

もう五分くらいねたっていいじゃないか
けさは寒いんだよと
わたしにささやきかける小さい悪魔を
すぐにやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

明日があるじゃないか
明日やればいいではないか
今夜はもう寝ろよと
机の下からささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

紙くずがおちているのを見つけたときは
気がつかなかったというふりをして
さっさといっちまえよ
かぜひきの鼻紙かもしれないよ
不潔じゃないかとよびかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそ　わたしは　ほしい

どんな苦難ものりきれる
大きい勇気もほしいにはほしいが
毎日　小出しにして使える
小さい勇気でいいから
それが　わたしは
たくさん　ほしい

それにそういう小さい勇気を軽べつしていては
いざというときの大きい勇気も
つかめないのではないだろうか

このコロナ禍において、現代は不安と混迷の時代と言えます。東井義雄先生の上記の詩のようにたくさんの『小さい勇気』を大切に、他の誰でもない自分の道を足元を見つめ一歩一歩踏みしめていくことで、その道は必ずや「恰も好し」という揺るぎない人生につながっていくのではないでしょうか。